

2016年度 第2四半期 決算説明会

2016年11月18日
タツタ電線株式会社

**本資料における将来の予測等に関する各記述は当社が現時点で入手可能な情報に基づく判断や仮定によるものであり、リスク及び不確実性が含まれております。
したがって実際の業績等は、予想数値とは異なる結果となる可能性があります。**

本資料に関するお問い合わせ先

タツタ電線株式会社

経営企画部

TEL:06-6721-3011 FAX:06-6726-2300

<http://www.tatsuta.co.jp/>

1. 2016年度第2四半期(上半期)決算概要
2. 2016年度予想
3. 中期計画施策の推進状況

1. 2016年度第2四半期(上半期)決算概要

1-1 2016年度上半期決算および年度予想

(単位:百万円)

	2015年度			2016年度			2016年度 (当初予想値)	
	上期	下期	年度	上期	下期 予想	年度 予想	上期	年度
売上高	27,195	25,315	52,510	24,414	23,585	48,000	25,400	51,000
営業利益	2,581	1,842	4,424	2,127	1,872	4,000	2,180	4,000
(営業利益率)	(9.5%)	(7.3%)	(8.4%)	(8.7%)	(7.9%)	(8.3%)	(8.6%)	(7.8%)
経常利益	2,700	1,857	4,557	2,140	1,859	4,000	2,180	4,000
当期純利益	1,835	1,117	2,952	1,562	1,187	2,750	1,500	2,750
一株当たり 当期純利益(円)	28.77	17.51	46.28	24.49	18.62	43.11	23.52	43.11
一株当たり 配当(円)	6.00	6.00	12.00	6.00	6.00	12.00	6.00	12.00
銅建値 (千円/トン)	738	613	676	544	550	-	650	650

1-2 上半期決算および年度予想(要点)

(上半期決算)

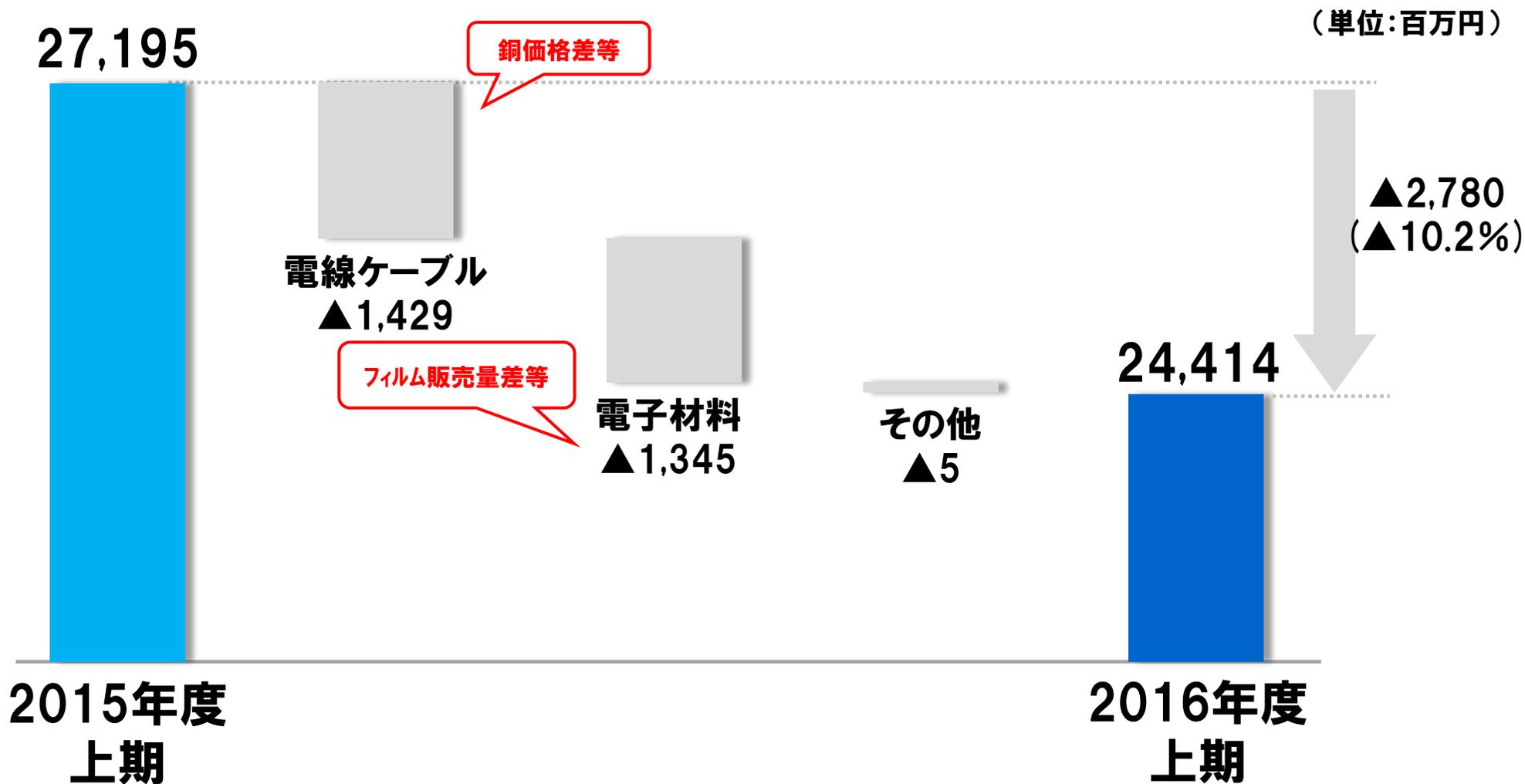
- 売上高は「銅価低位推移」、「フィルム製品減販」を主因に対前期、対予想とも減収。
- 営業利益は「フィルム減販」の影響が大きく、対前期減益の一方、販売構成改善、効率化等により概ね予想どおりで推移。

*「予想」売上および営業利益は2016年5月11日に公表したもの

(年度見通し)

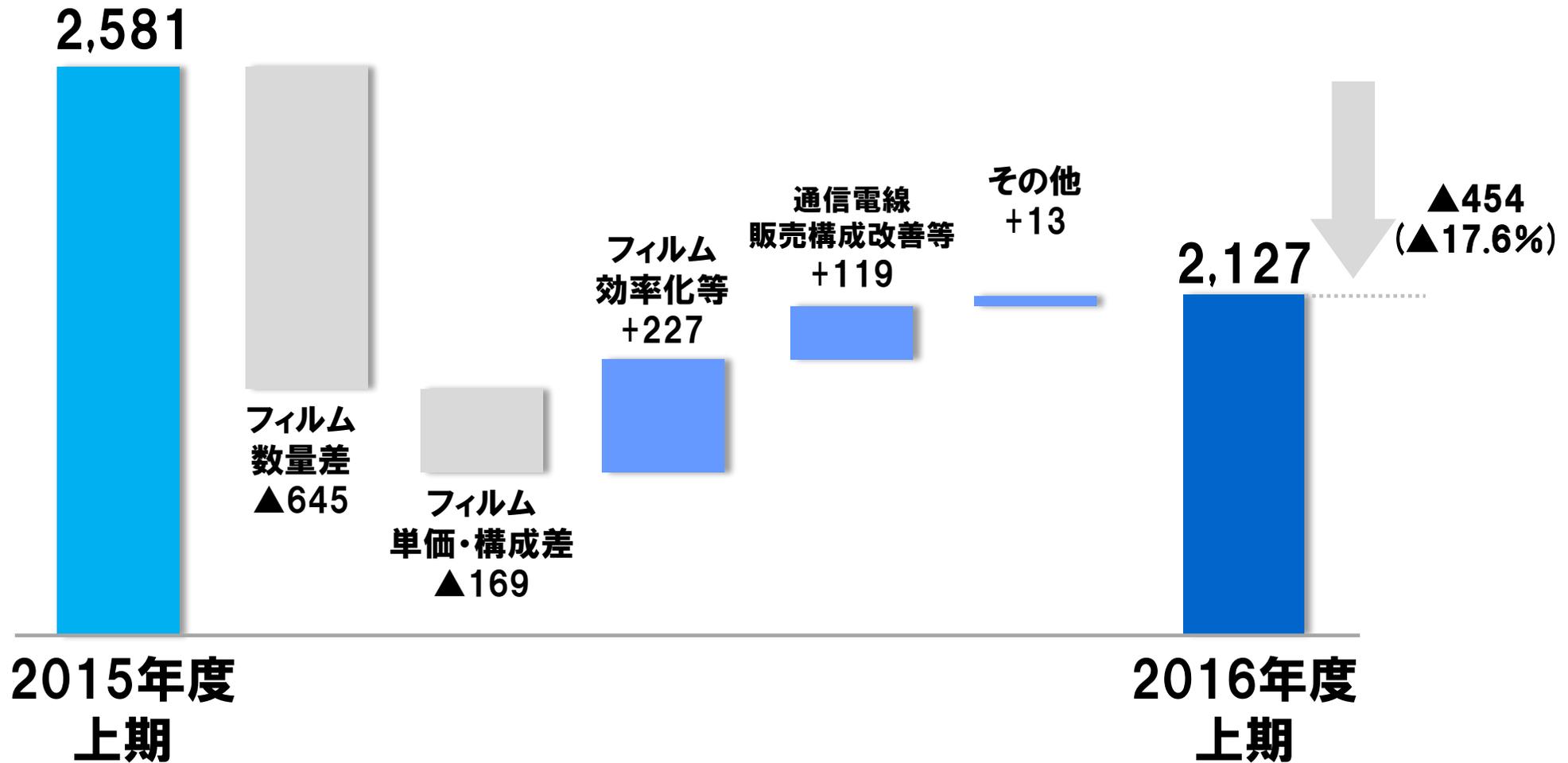
- 売上高は、下半期も「銅価の低位推移継続」見通しのもと、年度でも(対前期、対予想)減収。→ 年度売上高予想修正へ
- 営業利益は「上半期におけるフィルム減販」を主因に対前期減益なるも、予想利益は確保見通し。

1-3 売上高の増減要因(対前期)



1-4 営業利益の増減要因(対前期)

(単位:百万円)



1-5 貸借対照表

(単位:百万円)

	2016年 3月末	2016年 9月末	増減	備考
流動資産	30,804	31,055	251	短期貸付金増、売上 債権・棚卸資産減
固定資産	13,802	14,502	699	
資産計	44,606	45,558	951	
流動負債	7,143	6,939	△203	
固定負債	1,370	1,387	17	
負債計	8,513	8,327	△185	
純資産計	36,093	37,230	1,137	利益剰余金増等
内)運用資金	8,281	10,034	1,752	
内)有利子負債	1,060	50	△1,010	
自己資本比率	80.9%	81.7%	0.8%	

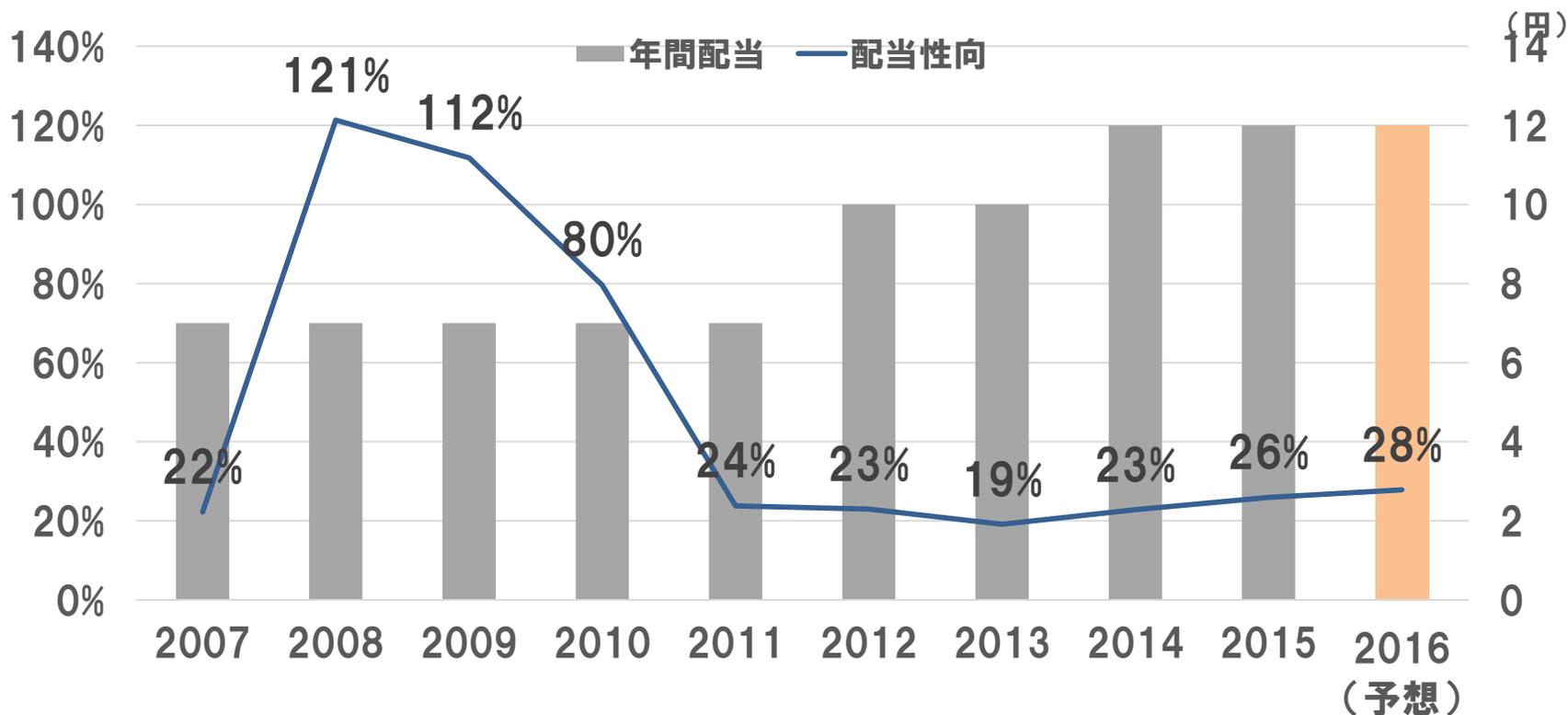
1-6 キャッシュフロー計算書

(単位:百万円)

	2015上期実績	2016上期実績	備考
営業CF	1,350	4,126	売上債権、棚卸資産減等
投資CF	△1,071	△3,121	
設備投資	△2,403	△1,183	
その他	1,331	△1,938	短期貸付金増等
財務CF	△568	△1,402	
CF合計	△290	△397	
(減価償却)	(604)	(733)	

1-7 株主配当

株主還元については、事業実態、業績の動向および設備投資の見通し等を総合的に勘案したうえで、安定的な配当を継続することを基本方針とする。



- 2016年度中間配当は2016年10月25日開催の取締役会で6円配当を決議(予定どおり)
- 同上取締役会で自己株式取得を決議(上限2百万株・10億円)
- 期末配当を含め年間12円の配当を実施予定

2. 2016年度予想

2-1 2016年度業績予想

(単位:百万円)

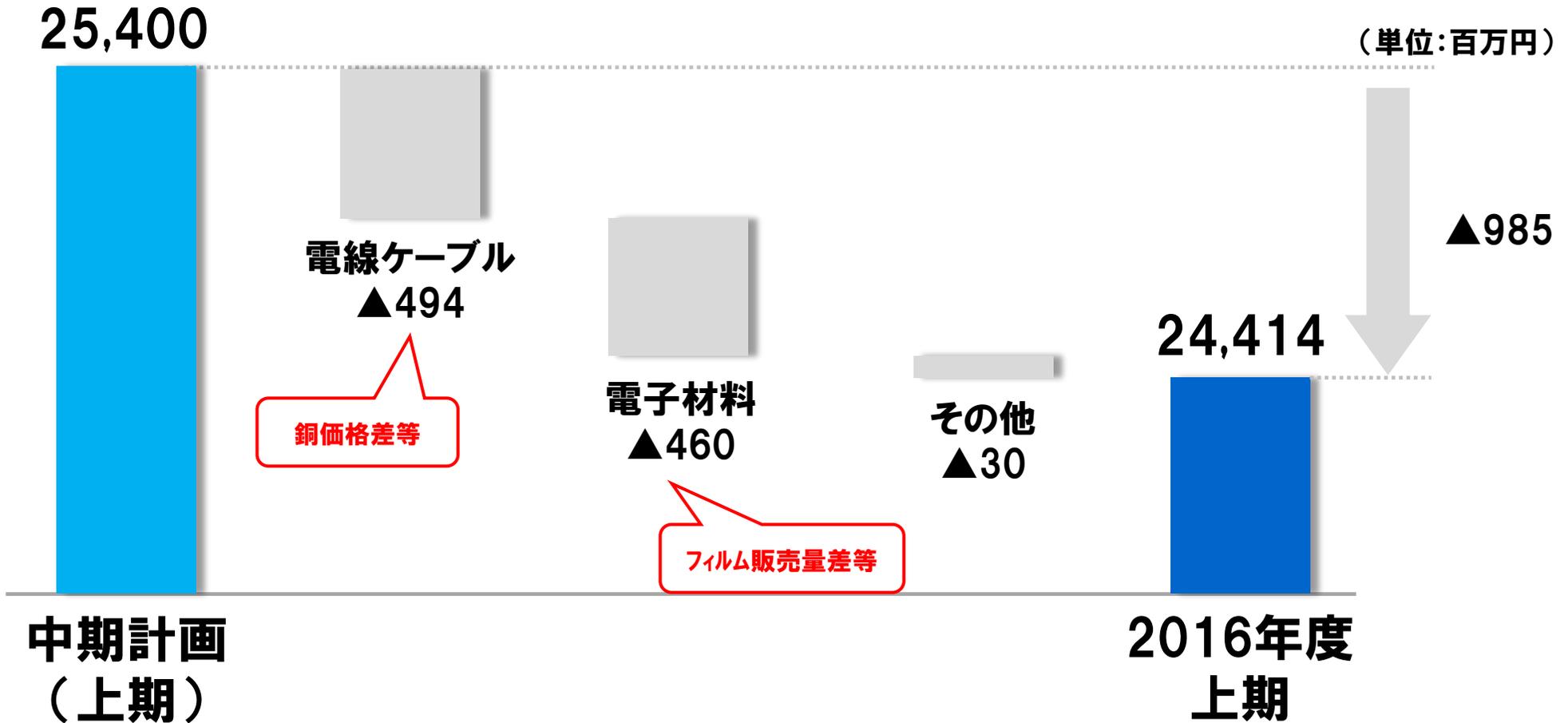
	2016 中期計画	2016 予想	2017 中期計画	2018 中期計画
売上高	51,000	48,000	53,000	55,000
(営業利益率)	(7.8%)	(8.3%)	(7.9%)	(9.3%)
営業利益	4,000	4,000	4,200	5,100
(ROA)	(8.6%)	(8.7%)	(8.6%)	(10.0%)
経常利益	4,000	4,000	4,200	5,100
(ROE)	(7.6%)	(7.4%)	(7.3%)	(8.7%)
当期純利益	2,750	2,750	2,850	3,600

2-2 2016年度業績予想

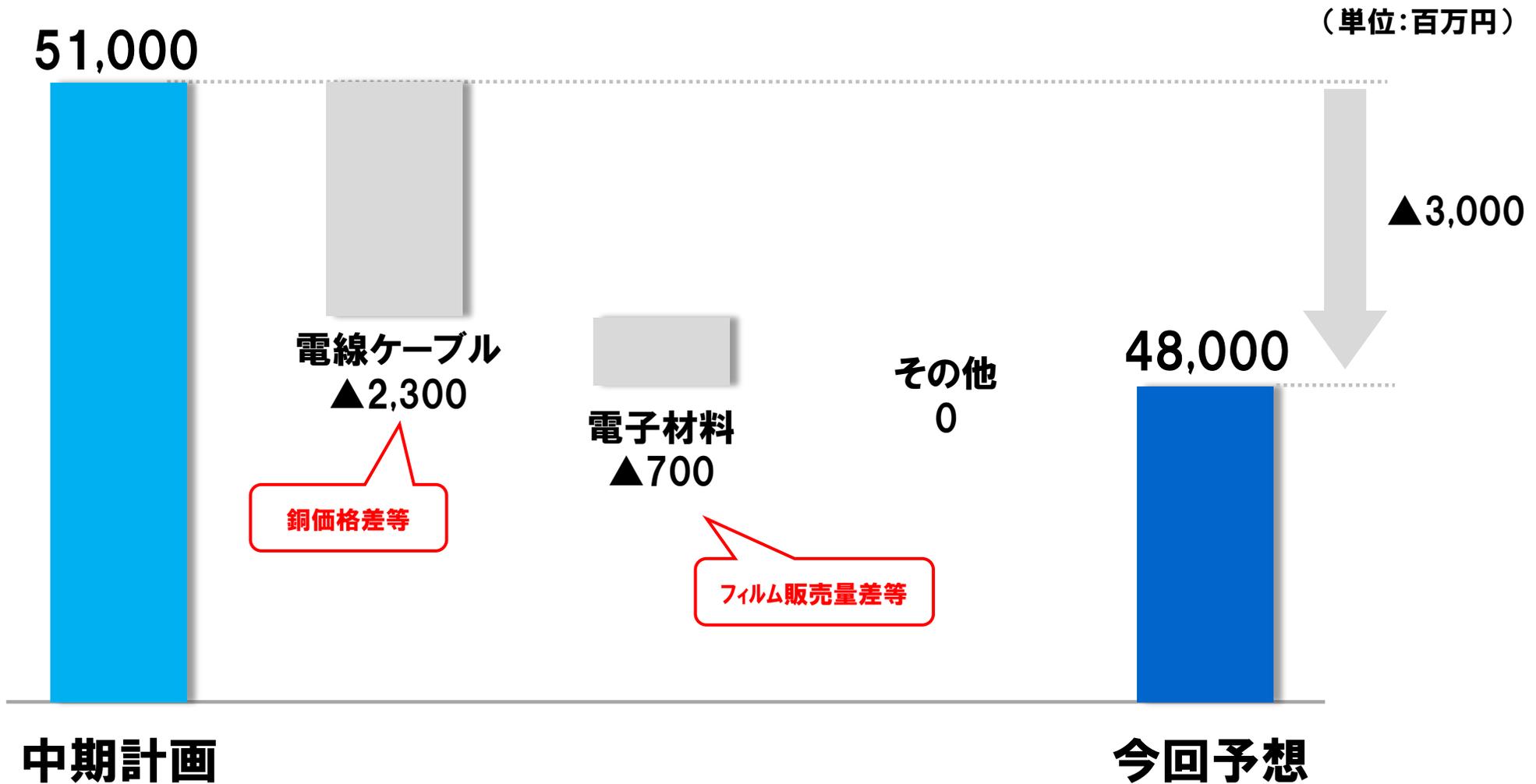
(単位:百万円)

	2016予想			2016当初予想		
	上期	下期	年度	上期	下期	年度
売上高	24,414	23,585	48,000	25,400	25,600	51,000
(営業利益率)	(8.7%)	(7.9%)	(8.3%)	(8.6%)	(7.1%)	(7.8%)
営業利益	2,127	1,872	4,000	2,180	1,820	4,000
(ROA)	-	-	(8.7%)	-	-	(8.6%)
経常利益	2,140	1,859	4,000	2,180	1,820	4,000
(ROE)	-	-	(7.4%)	-	-	(7.6%)
当期純利益	1,562	1,187	2,750	1,500	1,250	2,750

2-3 売上高増減要因(上半期、対当初予想)

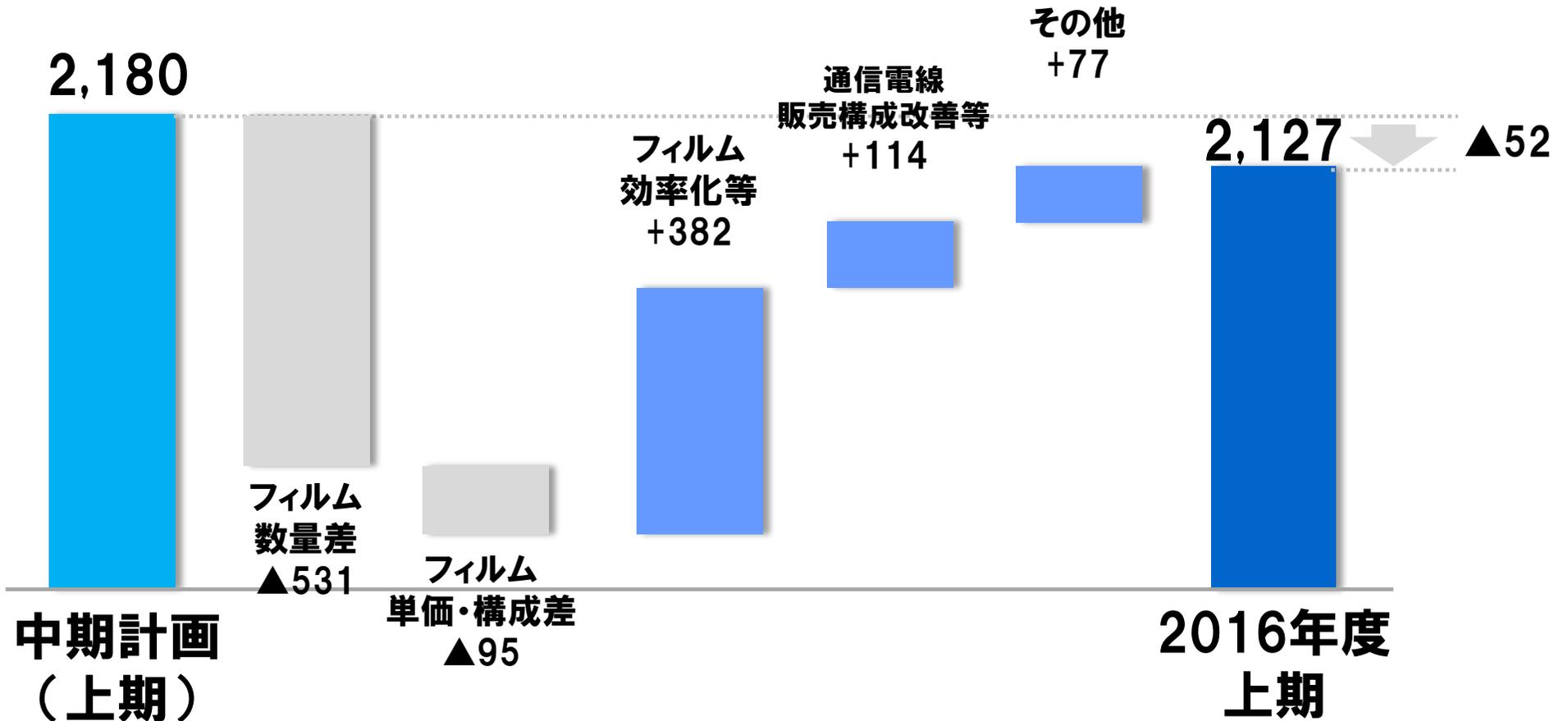


2-4 売上高増減要因(年度、対当初予想)

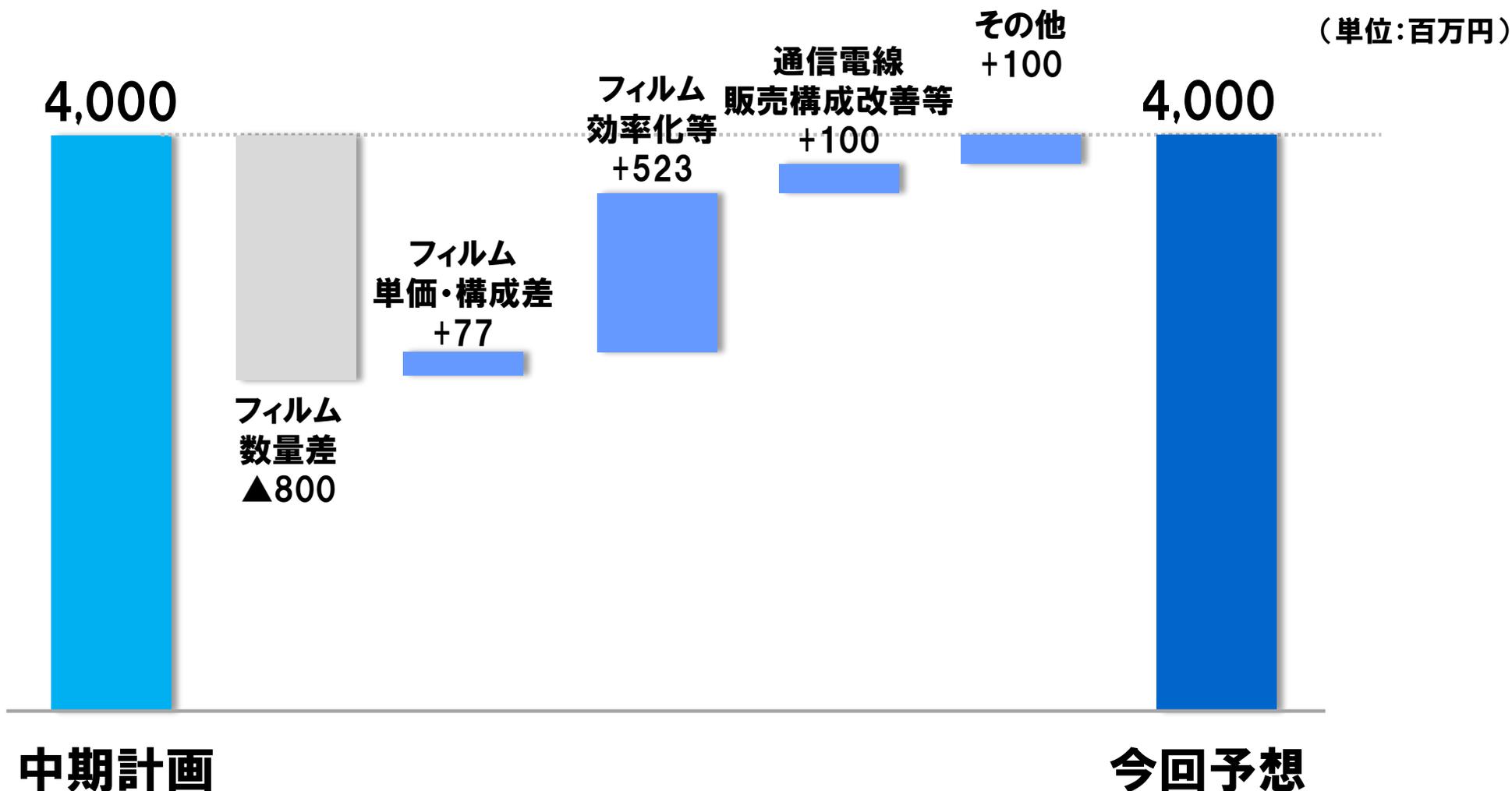


2-5 営業利益増減要因(上半期、対当初予想)

(単位:百万円)



2-6 営業利益増減要因(年度、対当初予想)



2-7 キャッシュフロー、設備投資

(単位:百万円)

	2016上期 実績	2016年度 予想	2016年度 中期計画
営業CF	4,126	6,865	4,243
投資CF	△3,121	△ 5,477	△ 3,802
設備投資	△1,183	△3,803	△4,354
その他	△1,938	△1,674	552
財務CF	△1,402	△ 1,786	△776
CF合計	△397	△398	△335
(減価償却)	(733)	(1,662)	(1,911)

(2016年度の主な投資項目)

- 仙台工場生産体制整備等:5億円
- 通信電線製造設備効率化等:4億円
- 機器用電線製造設備更新、増強:3億円
- 新規周辺事業開発諸投資:3億円
- 建屋耐震対応:8億円

3. 中期計画施策の推進状況

3-1 2016-18中期計画基本方針

経営ビジョン

- 電線・ケーブル事業（国内インフラ向け）及び電子材料事業（機能性材料）をコア事業とし、次代を担う事業の開発にも継続的かつ積極的に取り組み、活力・スピード感に溢れ、公正かつ透明性の高い連結経営を推進することにより、持続的に成長し、中長期的な企業価値を向上させる。
- 地球環境問題に配慮しつつ、顧客ニーズにマッチした特長ある商品・サービスを提供することにより、持続的な社会の発展に貢献する。

中計課題

- 既存事業の収益底上げ
- 大型投資効果の着実な実現
- 新規分野・商品の事業化促進
- 積極的設備投融資の継続

設備投資実績 (単位: 億円)

11	12	13	14	15
16.5	42.4	19.7	14.5	38.6

2011 中国常州 機器用電線新会社設立
2012 マレーシア ファインワイヤ新会社設立
2013 木津川 テクニカルセンター建設
2014 立井電線 株式取得
2015 仙台工場 買収
サンタクララ、上海営業拠点新会社設立

3-2 2016-18中期収支計画(セグメント別)

(単位:百万円)

	2016 中期計画	2016 予想	増減	2017 中期計画	2018 中期計画
電線ケーブル	29,600	27,300	△ 2,300	31,200	32,500
電子材料	19,600	18,900	△ 700	19,800	20,000
その他	1,800	1,800	-	2,000	2,500
売上高	51,000	48,000	△ 3,000	53,000	55,000
電線ケーブル	900	1,000	100	1,000	1,300
電子材料	3,700	3,500	△200	3,800	3,900
その他	△ 600	△ 500	100	△ 600	△ 100
営業利益	4,000	4,000	-	4,200	5,100

3-3 2016-18中期計画基本課題

2016 事業課題

○ 通信電線事業の安定収益体制強化

高マージン商品へのシフト、コスト削減、計画的設備更新の継続

16.4 "機器用電線
事業本部"発足

○ 機器用電線事業の基盤強化、収益拡大（拡販：第3のコア事業へ）

常州・立井の基盤強化、機器用電線グループ各社の連携強化、中国における市場開拓・拡販

○ 機能性材料事業(シールドフィルム)の収益維持

スマホ向けシェアの維持(米国・中国拠点強化、品揃え拡充)、コスト削減(仙台効果最大化)

販売先・用途の拡大

○ 周辺事業・新規事業の育成

ファインワイヤ拡販、医療関連機器、医療用電線・チューブ、メタライズペースト、

高耐熱樹脂フィルム、新表面処理技術・・・

16.4 "医療機器事業推進室"発足

2016 その他課題

○ コーポレートガバナンスの強化

○ 長期ビジョンの策定

○ 創業70周年記念事業(2017年度)の計画・準備

【目的】グループ共同体意識醸成(多軸・多拠点化)

新成長戦略(シールドフィルム利益ピークアウト)

ガバナンス(長期戦略の開示)

【時期】2017年5月頃 公表予定

3-4 事業施策推進状況(電線ケーブルセグメント)

セグメント総合評価:○

- ・ 2016年度セグメント営業利益10億円達成見込み

通信電線製品の高付加価値品へのシフト:○

- ・ 直需製品(太陽光向け等)の拡販実現
- ・ その他コスト低減も予定どおり推進

機器用電線事業の基盤強化、収益拡大:△

- ・ 生産基盤強化(国内、海外)は計画どおり推進
- ・ 中国販売の本格立上り未実現および一部工程コスト引下げ遅延により収益改善は未達 → キャッチアップに継続注力

3-5 事業施策推進状況(電子材料セグメント)

セグメント総合評価:○

- ・ 上期世界携帯端末販売低迷の影響を受けたが想定レベルで着地

スマホ向け高シェアの維持:○

- ・ 既存顧客シェアは着実に維持
- ・ 中国ブランド主要モデルにも採用浸透
- ・ サポート拠点強化(中国、米国)、BCMS体制の構築およびその他競合対策を計画どおり推進

コスト削減、販売構成改善:△

- ・ 仙台工場を活用した低コスト・効率生産体制へ構造改善は計画通り進展
- ・ 但し、上期は販売低調のもとコスト削減効果減少
→ 更なるコスト削減策を継続推進中
- ・ 高付加価値品拡販等販売構成改善も計画どおり進捗

3-6 その他施策推進状況

周辺事業、新規事業の育成

- ・ ファインワイヤ事業は国内販売拡大により伸長。但しマレーシアの販売拡大が遅延し、取組み継続中。
- ・ 医療機器向け部材については、開発製品の適宜の市場投入を実施しつつも育成段階継続。
- ・ ペースト等機能性材料については半導体パッケージング、プリント配線板事業周辺分野での試作対応を展開中。

その他

- ・ 次年度以降の成長戦略としての2025長期ビジョン策定作業を推進中。
- ・ 当該期間はローリング方式ではない中期計画への変更を検討中。

参考資料

タツタグループについて

タツタ電線株式会社

通信電線事業

機器用電線事業

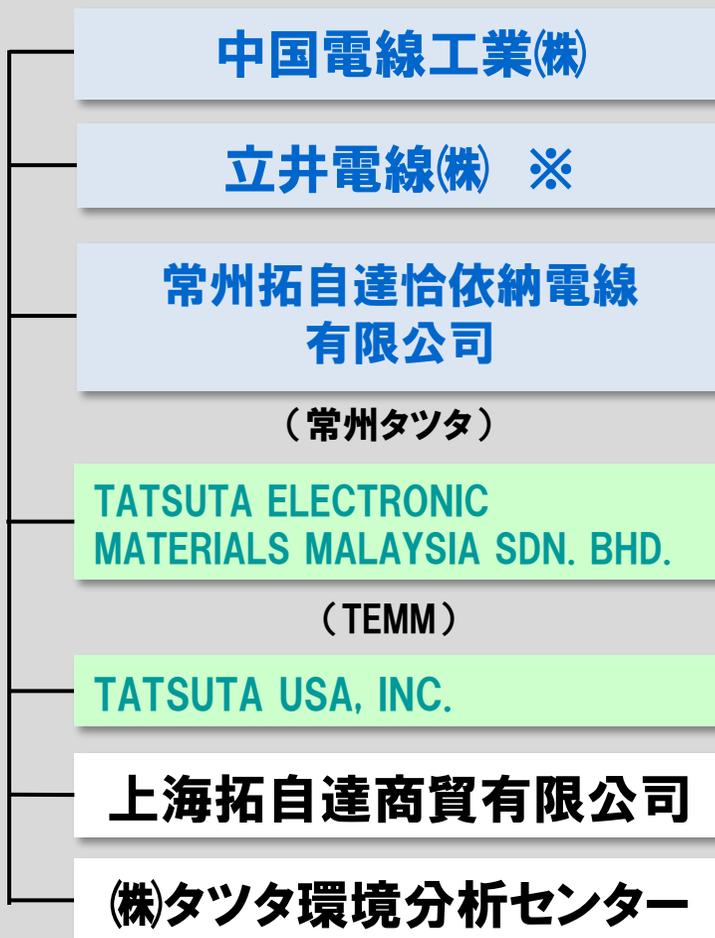
機能性材料事業

ファイファイヤ事業

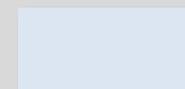
機器システム製品事業

光部品事業

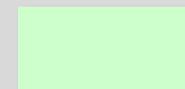
環境分析事業



※セグメント区分



電線ケーブル



電子材料



その他

※ 立井電線(株)出資比率は75%
他の会社は100%

新製品例 ～通信電線～

最高許容温度115℃
電気機器用特殊耐熱ビニル絶縁電線
ネツタフ115[®] (S)HKIV

- 熱に強い(従来比 約2倍)
- カラーバリエーション豊富(13色対応)
- RoHS規制6物質非含有品

平形高周波誘導加熱用リード線

Tatsuta Layer Flexible & flat Q : 架橋ポリオレフィン絶縁

TLFQ

- 低インピーダンス
- 平形で柔らかい(当社比 2倍以上の柔らかさ)
- 配線しやすく、省スペース化可能
- 端子付きでご提供



開発製品例 ～医療機器分野～

透析用抜針漏血検知機

見針絆 - 透析抜針・漏血検知器



NIPRO



TATSUTA

見針絆の構成



TATSUTA

NIPRO



TATSUTA

開発製品例 ～医療機器分野～

輸液自然滴下の補助器具「滴びた」



- 滴下の間隔から、一分間の滴下数を自動表示
- バックライト付きで夜間でも滴下確認可能
- バッテリー駆動により、電池交換不要(充電式)

